



御挨拶

白楊ヶ丘同窓会東京支部
支部長 北川有光（26期）

昨年八月、母校における同窓会の年度総会に、在京の諸君を代表して小泉龍彦君（52期）と共に出席し、その席上当支部初代の支部長斎藤鎮雄先輩（21期）と二人、本部の副会長に推され、東京支部成立の大きな意義を認めさせてもらいました。

更に本年三月十日には、母校の卒業式に同じく支部を代表して列席、同日開催の同窓会新入会員歓迎会において歓迎のことばを述べました。

この二つの年中行事に出席したこと、秋の支部総会に母校並びに本部から代表が出席することは共に大切なことで、永続を祈ります。

在来の在京函中会（旧制）に併せて、新制中部高校卒の諸君を加えた現在の支部結成を志してから約十年。その必要なし、二部制等々の声もあり、加えて本部との連絡思うにま

かせず。然し、道産ッ子の粘りで遂に出来上ったという感じであります。

偏見に斎藤鎮雄先輩を初め結成準備に情熱を注いだ第一回常任理事各々第であります。

母校に感謝し、母校に思いを到し、先輩後輩の結びつきを保つことが常に想いを寄せられ、母校並びに本部組織を末長く大切にして頂きたい。

姿、形こそ変れ、△白楊魂△の掲額を中心とした、厳然たる真の自由主義を貫く訓えこそ、民族の、そして人類のための、それぞれの職場における先達となるための精神である。

幸い近くに旧制、新制の接点である、三国、福津、小泉君等が居り、彼らに手弁当で各年度の幹事役を探し出してもらつた。正直言つて第一次卒業の北川君にバトンタッチすることになった。

三度び白楊ヶ丘同窓会東京支部総会を開き、ここに支部長を同じ大正年代卒業の北川君にバトンタッチすることになった。

東京白楊だより

第2,3合併号

昭和55年7月25日
函館中学校
函館中部高等学校
白楊ヶ丘同窓会東京支部

より大きく発展されることを

前支部長 斎藤 鎮雄（21期）
白楊ヶ丘同窓会東京支部

52年夏だったと思う。函中卒業有志の方が7名突然私の事務所を訪れ、函中生の紳だと驚いた。

見た時は感激もさる事ながらさすがに足らざるを励ましたので、最高の

と話を持ち込まれた。勿論私とて異存はなく、双手を上げて賛成した。

「集いによる五百の子弟……」と歌のあとで「ついては斎藤さんに初代会長を」ときり出され、今度は困惑した。前進、後退、話はもつれたが、とにかく北川君他6名、ついに土俵外に寄切られ、引受ざるを得なくなつた。

考へるに卒業後、同期、同輩の集いは我々の時代でも良く行つたが、これにプラス縦のつながりを探る事は大変な事であり、まして新制高校卒を含めるとなると並大抵の仕事ではないと新ためて作戦を練つた。

とにかく王子の和田君とも逢い、先輩格の長老よりも若い世代をさぐり出し活気みなぎる会づくりにしようと話合つた。

三度び白楊ヶ丘同窓会東京支部総会を開き、ここに支部長を同じ大正年代卒業の北川君にバトンタッチすることになった。

と誇りに感じております。同窓会は単なる親睦や懐古趣味のためのもの、あっては意義がないと存じます。人格を形成することを切望します。

先輩後輩、仕事の面においても互に足らざるを励ましたので、最高の努力に期待する。

本部だより

同窓会長は長寿のジンクス

白楊ヶ丘同窓会会長

篠島吉平（41期）

函中同窓会副会長でPTA会長で
もある山形道文氏（四十八回生）が
ある審議会の会長に選ばれたとき言
つた。「この会の会長は代々亡くな
るのでひき受けたくなかった。今朝
も家内に絶対ひきうけるんじゃない
よと念をおされて出てきたのだが、
とうとうひき受けるはめとなつてしまつて」と。歴代会長と違つて若い
山形氏でもジンクスは気になるよう

これに反して私（四十一回生）が
同窓会長になつたとき横田忠康先輩
（三十七回生、今春函中退職）に言
われたのは、「歴代会長はどなたも
永年会長をつとめて、退いたあとも
かくしゃくとしています。新会長も
健康に注意して永くつとめて下さい」と
いうことだった。

このような重責があるとは知らなかつた私はとたんに健康の自信を失
ってしまった。

初代会長後藤彰氏（一回生）の経歴
は残念ながら私はわからないが、大

きくとしていて、終戦当時同窓会名
で学校の山林一万四千坪を確保した
苦心談を語つてくださった。第三代
会長の元木省吾氏は十三回生で、亡
くなられたときは八十才に近かつた
と思う。第四代会長の美馬孝夫氏は
二十五回生だから七十四才かと思う
が、病院長として毎日激務を処理し
ておられる。

医者の不養生に明け暮れた私のよ
うな者がこの四人の先輩の伝統をた
ゞで継げるとは思われない。健康増
進を目指した私は会長就任の三ヶ月
後から、ジョギングを始めた。函中
時代二千米走ではいつも落伍者であ
った私だが、ジョギングを九百米
から始めると一日一日と健康になっ
ていくのがわかるのだった。という
のも、よほどだめな体になつていた
からに違ひない。半年後三千米を駆
け足出来るようになつて私は健康をと
りもどしたことを確信した。

然しこんな確信が何の役にたとう
いつ病や事故に倒れてもおかしくな
い人の身でありながら今日まで二年
半、夏も冬も健康生活を続けられた
ことを幸運というべきだろう。

健やかな長寿者という歴代会長の
伝統を私の代で傷つけることは避け
た伝統、それを

正二年に就任しているのだから最も
長い期間会長だったに違いない。第
二代会長の葛西民也氏は十四回生だ
から八十六才かと思うが今もかくし

やくとしていて、終戦当時同窓会名
で学校の山林一万四千坪を確保した
苦心談を語つてくださった。第三代
会長の元木省吾氏は十三回生で、亡
くなられたときは八十才に近かつた
と思う。第四代会長の美馬孝夫氏は
二十五回生だから七十四才かと思う
が、病院長として毎日激務を処理し
ておられる。

随想

37期卒業

前（同窓会事務局長）横田忠康
白楊ヶ丘同窓会本部事務局を通し

て、東京支部のために一文をとの依
頼を受け、二つ返事でお引き受けし
ました。実は去る三月三十一日付を
以て、三十三年間勤務した母校函中
を退職しましたので、ちようどよい
記念になると思い、諸先輩をさしあ
いて筆を執つた次第であります。

かえりみれば、四十二年間の教壇
生活のうち、実に八割近くを母校で
暮らしたことになります。この間、
国の歩みとともに母校も多難な途を
たどりました。北海道立函館中学
校は、新学制施行によって北海道立
函館高等学校と名称が変わり、更に
男女共学の実施に伴う学校の統廃合
によって北海道函館中部高等学校と
冠称、現在に至っています。変わっ
たのは名称ばかり。

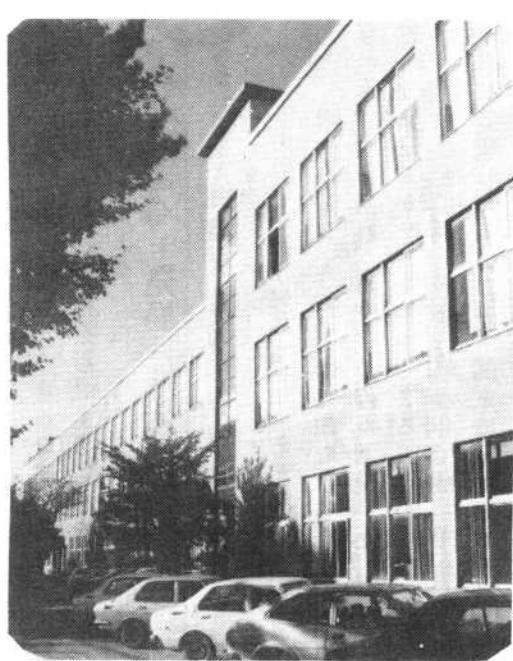
さて私の在職中に三つの大きな行
事がありました。母校創立六十周年
記念、同じく七十周年記念そして八十
周年記念であります。何れの場合にも、
最も感激したのは同窓生の協力ぶりであ
りました。そのたびごとに「さすが函中」と
手を打つたものです。しかしそれにも
増して感動したのは、母校勤務の同

象徴する“白楊魂”は、今でも、ど
こかに生きているような気がします。

だいたい制服も制帽もなく、バッジ
もつけない現在の生徒たちは、校章
にお目にかかることが極めて少いの
です。その校章は白楊の葉を図案化
したものなのですが、校舎の周辺に

白楊の樹がないのです。それでも私は
は敢て言わせてもらいたい、“白楊
魂”はどこかに生きていると。何か
あるごとに、ちらりちらりとその片
鱗を見せるからです。

さて私の在職中に三つの大きな行
事がありました。母校創立六十周年
記念、同じく七十周年記念そして八十
周年記念であります。何れの場合にも、
最も感激したのは同窓生の協力ぶりであ
りました。そのたびごとに「さすが函中」と
手を打つたものです。しかしそれにも
増して感動したのは、母校勤務の同



現校舎風景

窓の先生方の協力ぶりがありました。

是非母校にもお立ち寄り下さい。

授業のあいまを縫つての仕事、時に休日を返上しての活躍、早朝から深夜にわたらる作業、全校挙げての行

事とはいいながら、同窓会には同窓会独自の事業もあり、殊に無償の労力提供なので、事務局をあずかってた私など、ただただ頭を垂れ合掌した次第であります。おかげで同窓会の新聞「白楊だより」なども、年一回の発行ながらようやく復刊しました。配布の方法など、まだ研究の余地があるようですが、ともかくも同窓の先生方のお力で復刊したのです。今後ますます内容を充実して発展されるよう祈ってやみません。

(3) 東京白楊だより

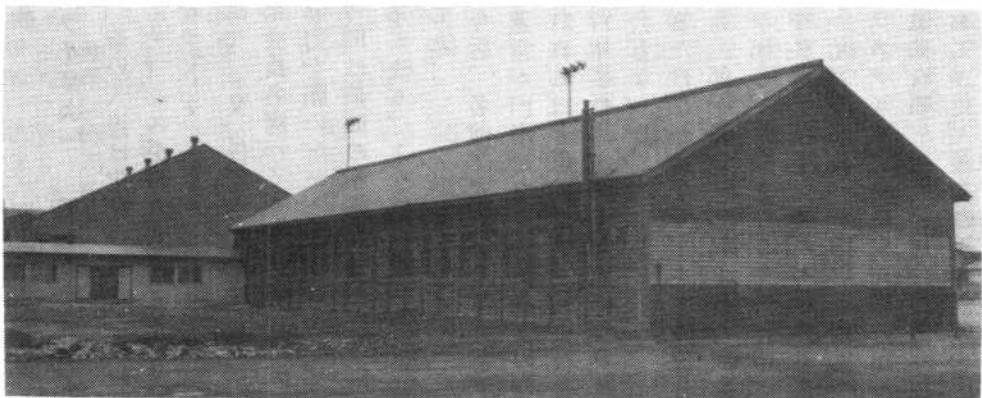
考えてみると、同じことが東京支部にも当てはまるはずです。支部の仕事にたずさわる役員皆様の御労苦に対し、深甚なる敬意を捧げると同時に、支部会員各位の御協力を切にお願いしたいと思います。函中を最終出身校としない方々が多い性格上、かなり困難な点もあるうと思われるように念じてやみません。

今日は五月十八日、日曜、快晴。桜は満開を過ぎましたが五稜郭祭りの最終日。この分では函館山も相当の人出でしよう。東京支部の皆さん、鷗鳴く宇賀の浦の潮騒が聞こえませんか。いかの刺身がおいしいですよ。もし帰省なさる機会がありましたら、

最後に皆様の御健康と御多幸を祈りつつ筆を擱きます。

ただ一つの残存運動場

昭和55年5月



国公立大への志向強まる

函館中部高校教諭 小葉松 治（48期生）

二年目の国公立大共通一次試験は、卒業生三百五十六名の八十五%にあたる三百三名が受験し、北大では、現二十八、浪十四、計四十二。北海道教育大では、現三十、浪六、計三十六。東大は、現三、浪一、計四が合格。国公立大合計では、現百三十、浪六十四、計百九十四。私大、短大等を含めて、合格数五百三十七の好成績でした。

函館の経済不況を反映してか、この数年、国公立大学への志望が増加しております。

教育大函館分校の入試

北海道教育大の一次配点は千点、二次国語、数学Ⅰ、小論文各百点で、計千三百点である。

共通一次が行われる様になってから、模試は各高校毎に実施不能となり、業者テストを利用する。その結果、コンピュータが、どの大学のどの学科に、どの程度の学力の受験生が多いかを知らせる。

昨年迄は、教育大函館分校の合格者三百名は、市内、道内、本州が三分割されていましたが、本年は本州勢が四十八%に大巾増となつた。

本校では昨年同様の合格数を確保

したが、教育大函館分校に、津軽海峡と言う地の利が存在しなくなつた事を、函館勢は知らされた。

母校函館中部高の進路指導の概況

共通一次試験の実施によつて、大学入試は改善されていない。函中生の多くは、一次、二次の必要のある国公立大学を志向する。

大学入試の構造が、大巾に複雑となるため、三十年以上も実施している実力考査だけでは判断が困難である。志望大学毎に異った業者の校外模試を利用し、多数の志望者の中での学力を判定し、不足を補うため、函中生はがんばっています。

先輩諸氏の巣立つていかけた、白楊ヶ丘では、現在も、高い志望を掲げた後輩達が、すばらしい青春の一頁を作りつつあります。あたたかい激励をお願いいたします。



現在の五稜郭風景

東京支部第二回総会

出席者二百五十名盛会裡に終了

「将棋四方山話」・特別講演
「若人よ！勇気をもつてトライせよ」 斎藤支部長挨拶
二上 達也九段



前回同様、平河町松屋サロンにて、日も同じく十一月二十二日、第2回支部総会は開催された。総会に先立ち、日本将棋連盟専務理事二上達也九段（二十五年卒五十二期）の特別講演があり勝負士の棋風でした。将棋界のウラ話は誠に興味あるものでした。

定刻六時には二百名を越える会員が集い、函館からお見えになつた横田先生、津島先生を囲んで会場は既に賑やかなふん団気になりました。

まもなく伊東常任理事の司会で総会が開始され、会務及び決算報告があり、斎藤支部長の挨拶がなされました。

今后、名簿作成によりますます会の運営が円滑になり会員相互の親睦が計られればと思います。司会は美しき27年卒の片山明子女史につがれ、宴会となつた。

宴たけなわになりギターの流しで北島三郎、春日八郎顔までの演歌がとび出し、一段となごやいだ中、29年卒佐藤美江子女史、37年卒林高裕氏（元音楽部員）を中心に即席のコラスグループが登場、思い出の歌を数曲合唱、その美声に万雷の拍手がおこつた。最初は函中同窓会に女性がいるのは考えられないなどと云つていた大先輩もはなやいだ雰囲気にいつしかくつろぎ席を変えてほしいとの始末、人々と時間も過ぎ、ピアノ伴奏により同窓会歌、中部高校々歌等の齊唱、会員名簿の完成を次回の総会までと祈念しつつ、万才三唱、無事閉会した。

前回同様、平河町松屋サロンにて、チャンスがおとずれたら、勇気をもつてトライせよ！」と熱のこもつた話で、「又、任期中に是非とも東京支部会員名簿づくりを達成したいのを協力を願いたい」と結ばれた。

今回は前回の不備であった各期の理事が決り、ようやく縦の線が出来ました。

昭和五十四年十月十七日午後六時から、千代田区平河町全共連ビル六階松屋サロンにおいて、第三回支部総会が開催された。

この総会において運営担当役員に与えられた目標が3点あつた。第一は、支部長の交替、第二は年会費制を今回はじめてとり入れて、その徴収をおこなうこと。第三は支部の運営基金を百万円ブルーすること。

初代支部長斎藤鎮雄氏の任期が、第三回総会前日で満了しましたため、後任には副支部長であつた北川有光氏が選出され、満場一致の賛成によって第二代目支部長が誕生した。壇上において、斎藤前支部長と北川新任支部長が固い握手をして、引継ぎの挨拶を交換した。

初代斎藤支部長が2年にわたる任期中に、ぜひとも完成させたいと願つて全役員に協力を訴えていたものは、東京支部同窓会名簿の編集、発刊であった。名簿編纂のために、福津、小泉、佐藤、三国の役員が中心になって、昭和五十三年の秋から、会案内と一緒に発送されたのが九月

東京支部第三回総会

支部運営基金百万を突破！



その準備にとりかかり、五十四年七月によく、各卒業年度別に名簿の原稿をとりそろえた。ところが集つた原稿は、殆んどといつてよくらいたアイウエオ順に、氏名の配列がなされていなかつた。矢張り名簿としての体裁をととのえ、使用する人々の便利を考えると、年度別、アイウエオ順につくりかえる必要があつた。約二千名の順序の変更、整理が、印刷業を専業とする佐藤女史を中心とした。約二千名の順序の変更、整理が、

以上にわ

たつておこなわれた。この間、数名の担当役員は、社業をおろそかにしていたと後日になつて伝えきいた。

その努力の結晶である東京支部名簿の発刊案内が、第三回総

白楊ヶ丘同窓会東京支部総会

福引券(一枚千円、かなづなにかが当る)

* 今年は趣向を変えてより楽しい会合にしたいと思います。多数の御参加を期待!!

理事一同

	第四回	第三回	第二回	第一回
	昭和五五年一〇月三〇日	昭和五四年一一月二二日	昭和五三年十一月二二日	昭和五二年十一月二二日
	於 ホテル・オーノ	於 松屋サロン	於 松屋サロン	東京支部総会
	予 定	二二〇名出席	二五〇名出席	三六〇名出席

運営が、これによつて助けられました。総会出席者は勿論のこと、会費と名簿の代金が統々と送金され、約四百名分にのぼりました。また、会場においてのラッフル券(一枚千円、かなづなにかが当る)

新旧支部長握手

記録

運営基金担当の佐々木理事も任期中の役割を満了しました。当日、総会出席者数は二二〇名でした。

会員の皆様、本当に有難う。

洋服地、抹茶用茶碗、ビール券、ボロシャツ色とりどり、タンブラー、缶詰、ストッキング、スコッチウイスキー十本等々。会員の会社の製品を買った会員にもれなく当りました。一人で五枚も買う会員もいました。おかげをもちまして、百万円の運営ファンドが出来ました。

も四百枚ほど売れました。仕立券付

も末に近い暑い日であつた。

斎藤支部長は、インクの匂いのまだ消えきらない名簿を手にして、ページをめくり、静かに閉じて、編集委員達へむかって深々と頭を下げてお礼を述べられた。「私の任期の中での、立派な記念が出来ました。これで私の役をおわらせていたゞきました。」

年会費も送られてきました。会の運営が、これによつて助けられました。総会出席者は勿論のこと、会費と名簿の代金が統々と送金され、約四百名分にのぼりました。また、会場においてのラッフル券(一枚千円、かなづなにかが当る)

昭和54年度総会寄附及びラッフル景品一覧表

21期	斎藤 鎮雄	金 10万円也
26期	北川 有光	金 5万円也
	田中 清玄	金 3万円也
41期生一同		金 3万円也
中部高等学校		
	寺岡 校長	金 1万円也

21期	斎藤前支部長	陶器 20点
26期	北川支部長	1) 茶掛 1幅
		2) 茶碗(大桶焼) 1ヶ
		3) 色紙 2枚
		4) 世界時計
		5) 図書 70冊

29期	大川原 雄三	エーボン化粧品
		ヘアーニック 5点
		ヘアークリーム 5点
37期	室谷 邦雄	シャープペンシル他
38期	二上 清	ボールペン 2ダース
40期	相馬 正樹	ニッカーウィスキーアイランズ 2本
43期	笹島 正保	三色ボールペン
46期	渡辺 龍和	英國製背広服地(1着分)
52期	小加藤 和	シャンプー 100本
		リーンス 100本
		シャープペンシル 30本
長島 康	日水カンヅメ	8打
竹沢 崇	あけぼのカンヅメ	8打
53期	原 寛一	ビール券 10枚
	佐々木 順平	バランタインウィスキー 10本
54期	大石 勘八郎	エトのゴム印 300個
56期	大澤 川陸	ティーシャツ他 20枚
	黒津 田恭	{ (パンティーストッキング他)
	佐藤 美江	手提袋
	加藤 正秋	すいがら入 ティッシュペーパー
57期	野村 実	(ボロシャツ)
	小竹 嘉子	小物、雑貨
59期	真船 昭	(くつ下他)
63期	越後谷 宏	ゴルフボール 6ヶ
		その他有志一同より



隨筆集

員の皆様がんばつて下さい。

当時の柔道剣道は正課としてどうしてもやらなければならない体育でした。体が小さかつた為冬の冷たい畳の上にたたきつけられるのがいやでどうしても身が入らなかつた。

最新鋭76機を含め514機展示され28機の妙技には大人も子供も日の暮れるのを知らず誠に驚異実物の迫力である。英、米、仏、伊、西、独、オランダ、カナダ、ルーマニアが参加企業団体は122、出展者は海外から55に及んだ。

これは昭和五十四年十一月入間基地で行われたもので世界的に13年の歴史を持つ夢の祭典であつた。これからアジアでたゞ一つの会として大いに世界の交流と親睦の為努力を続けて行き度い。

団体スポーツより個人スポーツが好きだったせいか放課後よく顔を出しつづけた。

上級生になつた頃幾度か職員室にかよい弓道部設立を懇願した。格好な場所が雨天体操場の北側にあつた。

然し同好の士が二名だつたので迫力がかけていたかも知れなかつたが先

弓とゴルフ

昭7卒 三ツ谷信栄(34期)

白楊だより（16.9・昭和五十四年八月四日号）のクラブ活動概況の中で部員待望の弓道場が完成し九月一日午後二時から道場開きが予定されている、とある。又部員各位も高体連、団体に活躍されている由非常に嬉しく思つて居ります。日も長くなつた今日此頃毎日新しい道場で日の暮れるまで練習されているものと思われます。道場も出来たことだし部

を残して昭和七年三月に卒業した。其の後入学した学校に立派な弓道場があり中学時代の鬱憤を晴らした。戦後世の中も落ちついて来てゴル

今年は私たちが函中を卒業して満四十五年になる。私たちの同期会は「十楊会」と称している。毎年一月に函館で総会を開いている。東京では年二、三回支部会を開いている。東京では十五人ぐらいが常連である。今年は七月二十日に北海道洞爺湖ホテル万世閣で全国大会が開かれることが多い。卒業以来、会つたことのない人に出会えるかもしれない。今から楽しみにしている。

最近書斎を整理していくと、昭和十年の卒業の時に親しい仲間で書き交わし文集が出て来た。書いてくれた友人たちをきつと忘れてはいると思

懐しい文集
昭10卒 室谷邦雄
(37期)

昭10卒 室谷邦雄（37期）

制服・制帽

昭11卒 西原 林之助(38期)

(昭55・記5)

の材料である。
私はこの文集を大切に取つておく
ことにした。

当時は、幼稚園児から大学生までキチンと制服、制帽を着用していた。登下校の時ばかりではない。いつ、いかなる場所においてもである。

幼稚園の制帽は、大学の四角帽に對し三角帽。たゞし、そのころ函館で唯一の幼稚園であった遣愛幼稚園は三角帽だったかどうかは忘れた。

小学生は折り襟、半ズボン。筒ツボカスリもいる。これが中等学校に入ると詰め襟、長ズボンに變る。函中の入学試験に合格して始めて長

ズボンを穿いたときは天にも登るほど嬉しかった。

(7) 東京白楊だより

当時は中等学生の洋服は一般には小倉木綿だったが、函中を始め北海道の中等学校は大学生なみのぜいたる。夏は霜降り。肩からは下げカバン。もっとも三年生、四年生と生意気になるにつれて手提カバンが多くなる。オーバーは袖のある、黄色二條の線があるのでよく旧制高校生と間違えられた。その頃白線帽をかぶるのは、旧制高校生と農業学校生に限られていたようである。

そこで旧制高等学校。これはもう御存知、白線帽、吊り鐘マント、腰に手拭、朴歯の下駄。応援団長や全寮委員長は紋付羽織袴姿である。

ところが変な習俗があった。制帽にアゴヒモをつけないのである。始めからないのではない。むしり取ってしまうのである。朝のN H K ドラマ「なっちゃんの写真館」に一高生君が登場するが、彼はアゴヒモをつけている。これは考証上明らかに誤りである。一高ばかりではなく、全国どこの高校もそうであった。貫一、お宮や三四郎の頃はどうか知らないが、かなり昔から、戦後旧制高校が消滅するまで続いた習俗である。理由はまだわからぬ。

慶應大学や同志社大学など丸帽のシンボルはある角帽である。女子医専生等もキチンと角帽を着けていた。同じ角帽でも学校によって多少の違いがある。早稲田大学のピンと稜線の張った角帽は、昔も今もわが国教育界の一つの象徴である。

ところが、東大、京大など国立大学にはまた変な習俗があった。アゴヒモを止める側章に必ず出身高校の側章を用いたことである。柏蜂桜星……等々等々。何とも愛校心の強

い連中ばかりであった。中には御寧にも片方に出身中学の側章をつけている者もある。これじゃまるで履歴書が歩いているようなものだ。後

年、いつ、いかなる場所においても、金バッジを外さない顯示習性は、早くもこのあたりから発芽したらしい。

制服、制帽の双璧は、学生と軍人である。短期現役主計科士官として

海軍に入つて知つたのが、海軍士官は勤務時以外は原則として平服であつた。公務外で軍艦から上陸するとき、あるいは陸上官衛勤務の場合

は、登庁時はセビロで役所に入つてから軍服に着替えるといった調子であつた。それでも大助りである。ユニホームの意味を本当に理解した、なかなかスマートなこと、感心した。

ところで、近頃の大学生はあまり

制服、制帽を着けないようだ。元来ユニホームは、兵隊とかお巡わりとか職務上必要があるから着用するものだが、考えてみれば、教育にはユニホームは格別必要なものとは思われない。学生はもちろん市民であり、それ以外の特別なものでも何でもない。市民は市民らしい服装をするのが一番自然であろう。「学問の自由」を象徴する意味でもよいことだ。少なくとも学生に制服、制帽を強制する必要は毛頭あるまい。

それはそうだが、われわれにとつ

てはやはり制服、制帽は懐しい。旧制高校の会で、紋付羽織袴白線帽の老書生がパン声を張り上げて寮歌を歌つたり、海軍の会で、制服制帽帶剣姿の老大尉が歩調正しく現われたりするのは、まことに楽しくもほゝえましい限りである。アナクロニズムとは喜劇であるとスナオにワリ切ろう。

そして、制服、制帽はそれを着用した者だけの永遠の追憶として、瞼の中に大切におさめて置こう。

今回の名簿作成調査で在京同窓会2,000名に達する。

名簿残多少ありますので下記宛お申込下さい
(再発行の予定は当分ありませんので、早めにお申し込み下さい。)

(株)販売促進代行

〒154 世田谷区上馬3-6-9

(電) 424-5511

52期 佐々木 順一

(株)サン・エポック

〒160 新宿区新宿2-7-7 寿ビル

(電) 354-8888(代)

56期 佐藤 美江子

名簿の追加・訂正は別紙にて配布及び次号に掲載いたします。

『大正生れのエレジー』

昭13卒 相馬正樹(40期)

頭のてっぺんからつま先まで、新品の制服制帽を着せられて、ピッカピカの一年生として函館中学校に入学したのが今から四十七年前、昭和八年の四月だったから、大よそ半世纪前のことになってしまった。松岡全権大使が国際連盟を脱退したりした勇ましい時代であった。一年生の終りの三月二十一日(昭和九年)函館の大廻に遭遇した。学校が焼けていますようにとの淡い望みも空しく、前の通りまで類焼したにも拘わらず、あの古ぼけた校舎だけが焼け残って、いるのを見て、ガッカリして帰ったことが想い出される。

四年生になつたら日華事変が起り、世の中が何となく騒々しくなり、キナ臭い臭いが漂よい始めて來た。この年(昭和十二年)の十月十日、北海道で陸軍大演習があり、天皇陛下の御親閥を柏野原頭でうけた。この頃から教科に採り入れられていた軍事教練にも次第に熱気がこもるようになつた。

陸軍士官学校や海軍兵学校などへ優秀な生徒が続々入学して行つたのもこの頃である。昭和十三年三月、同期生二百数十名が卒業した。この頃は、政府の不拡大主義とは裏腹に、日華事変の火の手が中国大陆全土に燃え広がろう

としていた。それでもまだ、バラ色の人生を夢みる余裕ぐらいは残されていた。しばらくしたら雲行きがおかしくなり昭和十六年遂に大東亜戦争が勃発してしまった。われわれは不幸にしてこのとき徴兵適齢の二十才に直面してしまった。学業半ばにして特攻隊として入隊しなければならない時代であったから、大部分の同期の桜は、前線に出ない者でも、何等かの形で軍籍に編入されて、中國大陸はもちろん、東南アジアあるいは北太平洋にまで出征して行った。そして二十代の青春をこれらの戦線に散らしたのである。

辛うじて九死に一生を得て帰ったわれわれを迎えたものは、食糧難と社会不安に喘ぐ祖国の土であった。

カイバル峠

昭14卒 廣田一哉(41期)

中には十余年のシベリアの抑留生活を堪え抜いた友もあった。そして、どうにか生活の見通しがつくようになつたのは、終戦後十年を経た頃で、既に三十五才の頃である。いま同窓会の会員名簿を眺めると、死亡者や不明者の多い卒業期は、三十三期から四十期前後の約十年間に集中していることに気がつく。そして、それらは同期生中の二十五%程度にものぼっている。四十期だけについて云えば、卒業生二三〇余名中、不明者、死亡者併せて九十名、このうち戦没者は、三十ペーセント、七十余名の多きを数えている。これらの数字から、われわれ世代がうけた戦争の傷



痕が生々しく感じとられて、胸のついていた。しばらくしたら雲行きがおかしくなり昭和十六年遂に大東亜戦争が勃発してしまった。われわれは不幸にしてこのとき徴兵適齢の二十才に直面してしまった。学業半ばにして特攻隊として入隊しなければならない時代であったから、大部分の同期の桜は、前線に出ない者でも、何等かの形で軍籍に編入されて、中國大陸はもちろん、東南アジアあるいは北太平洋にまで出征して行った。そして二十代の青春をこれらの戦線に散らしたのである。

とは云うものの、戦後の日本を、國大陸はもちろん、東南アジアあるいは北太平洋にまで出征して行った。それは、どう考えて見ても割の合わない話である。

とは云うものの、戦後の日本を、あの混乱の中から立ち直らせ、今日の奇跡的な繁栄を築きあげた主役の大半はわれら大正っ子が演じたこと

は誰しも否定できない事実である。

決して恵まれた人生であったとは云へないまでも、このことについては少なからぬ満足感をもっているものである。

われら四十期は今年で丁度六十歳、還暦を迎えることになった同期生の多くはこれからそれぞれ第一線を退

いて第二の人生を歩むことになるだろうが、身をもつて戦争を体験し、戦後の混乱から経済大国へと築き上げた立役者としての誇りと自信とをもつて残された人生を、長く生き抜いて行きたいものである。

アフガニスタンの首都カブールより車で3時間で国境の町トルハムに

着く。此處は標高724mであるが、此の写真は、アフガニスタンより

なつたのは、終戦後十年を経た頃で、既に三十五才の頃である。いま同窓会の会員名簿を眺めると、死亡者や

不明者の多い卒業期は、三十三期から四十期前後の約十年間に集中していることに気がつく。そして、それらは同期生中の二十五%程度にものぼっている。四十期だけについて云えば、卒業生二三〇余名中、不明者、死亡者併せて九十名、このうち戦没者は、三十ペーセント、七十余名の多きを数えている。これらの数字から、われわれ世代がうけた戦争の傷

は誰しも否定できない事実である。

決して恵まれた人生であったとは云へないまでも、このことについては少なからぬ満足感をもっているものである。

われら四十期は今年で丁度六十歳、

還暦を迎えることになった同期生の多くはこれからそれぞれ第一線を退いて第二の人生を歩むことになるだろうが、身をもつて戦争を体験し、戦後の混乱から経済大国へと築き上げた立役者としての誇りと自信とをもつて残された人生を、長く生き抜いて行きたいものである。

とは云うものの、戦後の日本を、

あの混乱の中から立ち直らせ、今日

の奇跡的な繁栄を築きあげた主役の大半はわれら大正っ子が演じたこと

は誰しも否定できない事実である。

われら四十期は今年で丁度六十歳、

還暦を迎えることになった同期生の多くはこれからそれぞれ第一線を退いて第二の人生を歩むことになるだろうが、身をもつて戦争を体験し、戦後の混乱から経済大国へと築き上げた立役者としての誇りと自信とをもつて残された人生を、長く生き抜いて行きたいものである。

とは云うものの、戦後の日本を、

あの混乱の中から立ち直らせ、今日

の奇跡的な繁栄を築きあげた主役の大半はわれら大正っ子が演じたこと

は誰しも否定できない事実である。

われら四十期は今年で丁度六十歳、

還暦を迎えることになった同期生の多くはこれからそれぞれ第一線を退いて第二の人生を歩むことになるだろうが、身をもつて戦争を体験し、戦後の混乱から経済大国へと築き上げた立役者としての誇りと自信とをもつて残された人生を、長く生き抜いて行きたいものである。

三十周年大会に期待!!

昭25卒 小泉龍彦(52期)

名づけて既に三十年になつた。
六月二十一日、前日の曇天とは、
うつて變つて晴々とした日で、卒業

三十年記念大会出席の為、内地勢参加者32名の中、全日空にて団体出発した18名はまるで修学旅行の様な騒ぎであった。

(S 55年7月 福津記)
(詳細は次号につづく)

「諸君はこの大東亜戦争真只中にこの栄えある廳立函館中学校に入學し……云々」の名調子、元木省吾校長の訓辞を聞いたのが昭和19年4月。

戰争末期から戦後のドサクサと時任の庭で6年間を過した期です。学校初まって以来正式に個人的には別として、6年間いたのは吾が期と一緒に上のドンジリ会の2期だけでしょう。

お蔭で旧制、新制共毎年の級替えで250名の生徒でお互い顔の知らないものはありません。今年はこのメンバーも卒業30周年を迎えました。6月には全国に散らばった面々が大沼に集い、盛大な記念パーティーを行い、学校に挨拶の上、市内を練り歩こう等と計画しています。恩師を招いたら誰が先生か年令差を感じさせない貫ロク?ある元生徒、皆それぞれ第一線で活躍中の紳士が、大きい声で「アダ名、呼びます」で語り合えるのが楽しみ。新聞、週刊誌にスクープされるかも?されませんので乞御期待!!

白楊ヶ丘同窓会のますますの發展を皆で築きましょう。

(昭和55年3月記)

「玄羊会」三十周年
記念大会大盛況

昭和二十五年卒・五十二期の私達は羊年が多く同期会は「玄羊会」と

中高年の泣きどころ

(理事を仰せつかつて)
昭17年 黒田博之(44期)

人生五十年などという諭言は当今ではもう通用しなからう。日本人の壽命が少くとも二十数年は伸びた勘定だから五十五才そこそで年寄りづらなど出来たものでない。

俺のかせぎを当てにして隠居させてくれないとばやく人は多勢いる。それが新らしい社会問題だと騒ぐ。私も二十年勤めた県庁を定年、現在『雇用開発指導員』で中高年を一人どうやって有能の士に混つて――。

でも雇つて下さいと会社にキャンペーンして歩くが、一昔も若い課長クラスの社員が一応笑顔で接してくれる。

函館空港には、数名の幹事諸兄が出迎えてくれ、亡き友の追悼式挙行の為中部高校に向つた。学校には既に百名程勢揃いしており、18名の故人に捧る追悼文を田中幹事が代読、個々に語りかけると、六年間、学業を共にした友の面影が去来し、万感胸痛む思いであった。生きていればまだまだやるべき事の多かった事を、たゞく惜しい!と叫ばずにはおられない。

短歌 アララギ

41期 佐々木忠郎

椎茸の古き榾木が 婆羅の樹の
形なきまでに 錠びし十月櫻に
枝々に無数の 青き薔あり

月報市政はこだて短歌選者 山内國治

雨過ぎし枯芝は靴に 柔かく 白樺は早く
葉を落したり 折々の電話に君の 話す聲終りは必ず
いたはりを言ふ

俳句 辻 巴稜 百句選より

43期 故 辻 善郎
元山一証券総務部長

海峡をよぎる舟あし鰯雲
庵室へつゞく敷石こぼれ萩
そこはかとなき夜の匂ひ沈丁花
(武藏野市吉祥寺)

久々に繙く史書や夜の秋
娘一人華やぐ部屋の福寿草

雑品懐旧

○ 制帽のリボン

函中の制服上衣の袖先きは金色のモールで飾り、制帽も同様二本のモールを縫い着けたものを着用。黒地に金色のモール人目をひくものでした。

それがやがて廃止され制帽のモールだけはそのまま残されました。

然しこのモールは黒地に二筋の黄色の線を織り込んだリボンを帽子に巻きつけるように変わりました。この制帽のリボンが数年前洋服簞笥の引き出しから古い水泳パンツにくるまつて出てきました。いつ頃引き出しにしまつたものか全く覚えがありません。リボンは汗や手垢で黄色が大部分は黄色を保つております。

両端を縫いつけた円形リボンの黄色い線をよくみますと頭部左側辺りの下段の線にインクで O B A T A と名前が書き入れてあります。ボールペンの先端で帽章の差し込み穴を探したら、リボン両端合せ目のところがスゥーと抵抗なく抜けました。

帽章が無いのが残念ですが、これは次のいきさつがあつたからです。卒業される庭球部の一年先輩の K . T . さんに、五年用教科書を譲つて、

貰えないかと頼みましたところ承知して下さいました。条件があると云うのです。「いま被つている学生帽と教科書一揃にノート数冊をまとめて引き受けること。そして君が

卒業するときこれを庭球部員で五年生級者の誰かにそつくり引き継いで貰いたい。自分も先輩からそう云う条件で譲り受けたのだから君もこの条件を守つて呉れるのなら譲りましょ」と云うことでした。

そういう理由で代々引き継ぎ継ぎつかれた品々は一年間私の許に留まることになりました。

帽子は払い下げ軍帽を黒く染めたもので年月を経た故か元の正体がそれとはつきり解るほど色があせ、ところどころ黒糸で破れを補修してあります。リボンは汗や手垢で黄色い線は薄黒くなつたところもありますが大部分は黄色を保つております。

教科書代がそつくり内諸で小遣錢に変わり、ノート類は怠け者の私にとって救いの神でした。

帽子は約束どおり一年間被りました。卒業は間近になりました。帽子はその頃になると黒色は完全に褪せ、間、目に触ることもなかつたので

が教科書類は一年間保存して置き、五年になつたとき使用させて貰いましたと云うのです。

「いま被つている学生帽と教科書一揃にノート数冊をまとめて引き受けること。そして君が卒業するときこれを庭球部員で五年生級者の誰かにそつくり引き継いで貰いたい。自分も先輩からそう云う条件で譲り受けたのだから君もこの条件を守つて呉れるのなら譲りましょ」と云うことでした。

卒業式から数日後 Y . T . 君が私の下宿を訪ねてきました。約束の品々を彼に引き継ぎ、二年後に同じよう

に庭球部員の誰かに引き継ぐことを約束させました。

しかし帽子は文字通りの破帽なため私は彼に帽子はご覧のとおりのものだから一日でも二日でもよいから

被つて登校してくれないかと頼み、一年間被らずに置いてあつた私の帽子を取り出し、引き受けた帽子がどうにも仕様がなくなつたときは帽子と帽章は捨ててもかまわないと云つてくれないかと云つて、帽子と帽章を彼に渡しました。

私は手持ちの帽子に古いリボンを着け替え遣すことによつて、当初の帽子は消滅しないんだと思いたかったからです。

こんな経緯があつてリボンだけが手許にのこり、その後五十余年もの

第三十四号の執筆者と標題その他のことからを目次を転載してお知らせします。

・学業 第三十四号（大正十五年）

目次

生徒諸子へ 川村文平
論 倍田勝太郎

一、同盟政索に関する一考察
二、代議制度の政治的価値を論ず

律賓の懷古 阿部真一郎
人生と音楽 伊藤辰生

「学叢」とは旧制函館中学校校友会発行の校友会誌の誌名です。私の手許に第三十四号（大正十五年発行五百頁）と第三十六号（昭和三年

発行百十八頁）各一冊があります。

学叢第三十六号の編輯後録に「冬も近づいた。やがて学校と別れねばならぬ我々が、後にこの学叢に接して懐旧の情を起される事が有つたら

学叢の貧弱さは別問題であろう。学叢は白楊ヶ丘と生命を同じくするものだ」と云つてあります。まさに至

言、私はこの二冊を懐旧の書として珍重しております。

学叢奥付に「発行所函館市大字龜田村字湯川通函館中学校校友会」と印刷してあります。「字」名を用いた地番表示に感慨一入であります。

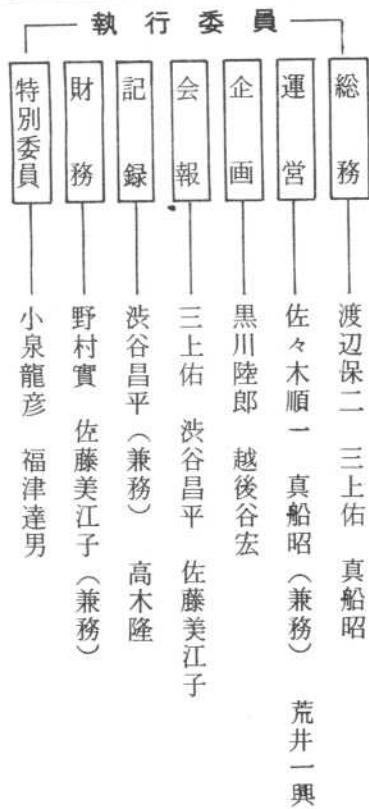
第三十四号の執筆者と標題その他のことからを目次を転載してお知らせします。

大プラトーン哲学イデア讀歌	卒業式 運動会	修学旅行 発火演
……（五年） 研究 伊藤一	平賀繁	習劍道部報告 柔道部報告 本年
最近変動の重要地理事項	山本岩龜	度優等生其他 編輯余錄
函館山植物総目録	鶴田勝太郎	学叢は阿部真一郎先生を長とする
函館付近に於ける植物区系の特質	塚本角次郎	雑誌部の編輯になるものです。校報
初夏雜篇	吉田博	学校ニュース、部報の記事、特に各
文苑	藤川芳二	部の実践活動、成績、記録、参加者
……（五年）	平賀繁	講評、感想、学校当局の公的記録等
故郷をあとに（五年）	羽山輝雄	は読む者をして五十有余年前の世界
夏のある夜。此悲慘	大塚博	に引き戻してしまいます。
登高	鈴木一雄	「大正十四年度に於ける優等生、
秋の月	○優等生	私は東京支部会員のどなたがこの
詩苑	五年 七人	記事に載つておるだろうかと、また
○長詩九人集 ○短歌十三人集	名簿になし。	ぞろお節介のことを思いつき東京支
句四人集 ○漢詩六篇	四年 十八人のうち浜田幸治氏	部会員名簿と突き合わせてみました
漫録	島政夫、奥瀬槐三、佐々木雄	次の方々のお名前が載つております
マニラ遠征記	三年 十五人のうち浜田幸治氏	おります。
……（五年）	二年 十五人のうち入江盛一、谷	○優等生
偶感録	本慶隆氏の両氏	私は東京支部会員のどなたがこの
……（五年）	五年 二組 正：佐々木雄三氏	記事に載つておるだろうかと、また
函館より長万部迄	五年 三組 正：奥瀬槐三氏	ぞろお節介のことを思いつき東京支
……（二年）	五年 二組 正：佐々木雄三氏	部会員名簿と突き合わせてみました
部報	浜崎正一 ○正副級長（正1、副2制）	次の方々のお名前が載つております
弁論部 音楽部 庭球部 競技部 水泳部 山岳部 校友会役	五年 二組 正：佐々木雄三氏	おります。

堅忍之拔

白楊ヶ丘同窓会東京支部役員名一覧

五五・一現在



顧問	常任理事	会計監査	会計	東京支部長	同副支部長
阿部良平(大六年卒)	渡辺三上	永田久右衛門	小野村堤	北川西	北川有光
斎藤鎮雄(大八年卒)	一 隆	黒川陸明	黒川林之助	黒川有光	(大十三年卒)
永井一郎(大八年卒)	昌 幸	佐藤順保	佐藤実	佐藤司	(昭十一年卒)
(大八年卒)	昭 宏	佐藤実	佐藤昭	佐藤昭	(昭二十四年卒)
渡辺保二	昭 平	渡辺一	渡辺昭	渡辺昭	(昭三十年卒)
三上佑	昭 田	昭 二	昭 三	昭 三	(昭三十年卒)
渋谷昌平	昭 中	昭 九	昭 二	昭 二	(昭三十年卒)
佐藤美江子	昭 清	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
(兼務)	昭 玄	昭 二	昭 二	昭 二	(昭三十年卒)
高木隆	昭 三	昭 三	昭 三	昭 三	(昭三十年卒)
佐藤美江子	昭 二	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
(兼務)	昭 二	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
荒井一興	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
渡辺保二	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
三上佑	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
渋谷昌平	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
佐藤美江子	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
(兼務)	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
高木隆	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
佐藤美江子	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
(兼務)	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)
荒井一興	昭 一	昭 一	昭 一	昭 一	(昭三十年卒)

「東京白楊だより」第2・3合併号

印刷・株サン・エポック・〒160新宿区新宿2-1-7-7

電話 03(354)88888

発行・白楊ヶ丘同窓会東京支部
編集人・三上佑、佐藤美江子、渋谷昌平

昭和五十五年度同窓会は来る十月三十日(木)（ホテル・オークラ）にて行います。昨年は二百二十名の出席がありましたが、今年は皆様誇りあつて多くの方々に御出席戴ければ幸甚です。形式は立食パーティで校旗を飾り年次報告。写真ボスター等記念品引賞品16種(20分)映写等を予定しております。詳細は各期理事から御案内します。最後に会報のおくれたことをお詫び申上げます。(編集一同)

編集後記

会計報告書

(自 53.11.22 至 54.9.30)

取入	支出
前期操越利息 649,590	理事会準備費(印刷・通信費) 11,400
総会費 @ 7,000 × 196人 1,372,000	理事会経費 3,100
寄附(斎藤30,000、北川20,000、塚田3,000) 53,000	総会準備費 13,826.6
名簿売上 @ 3,000 × 20冊 60,000	ハガキ代 7,366.6 ハガキ印刷代 2,360.0 白楊だより 3,600.0 校旗用バンド 5,000.0
	総会費(第2回) 1,262,050
	会場諸経費 1,125,900 謝礼(講師、ピアノ、ギター) 3,200.0 ウイスキー(持込) 6,000.0 領収書用紙等 4,500 本部員宿泊費等 15,330 写真代、その他 24,320
	校旗返送費 1,500
	総会運営委員反省会 29,090
	宮崎孝平氏香典 10,000
	第3回総会準備打合会 28,120
	本部総会派遣費(2人分) 6,282.0
	理事会案内状等 8,000
	第3回総会準備費 16,860.0
	印 刷 代 4,260.0 切 手 代 9,000.0 ハガキ 代 3,600.0
合計 2,141,910	名簿依頼状郵送料 2,500 残額 416,464 合計 2,141,910

第3回の報告は次号に掲載